

活動報告書

第15回 阪神つながり交流祭 2024

～阪神地域を盛り上げる大学生を知ろう～



阪神つながり交流祭学生実行委員会2024

【 も く じ 】

1. 阪神つながり交流祭の実施内容 p 2-9

交流祭当日に実施した内容をまとめた（当日パンフレット再掲）。

2. 交流祭当日のアンケート結果のまとめ p 10-12

交流祭当日に参加者に募ったアンケートをグラフにし、その結果から出た反省点などを報告する。

3. 2024 年度の活動の進め方 p 13

来年度の実行委員会の方に参考にしていただくために、我々がどのようなスケジュールで当日まで迎えたのかをまとめた。

4. チーム別振り返りレポート p 14-16

交流祭に向けて準備する中で、随時チームを作って役割分担した。その一部のチームの活動についてレポートでまとめた。

※「2024 年度の活動の進め方」のと照らし合わせながら見てください。

5. 来年度の実行委員会に向けて p 17

2024 年度の実行委員会から 2025 年度の実行委員会に向けてのコメントをまとめた。

1. 阪神つながり交流祭の実施内容

開催概要

プログラム名	第 15 回阪神つながり交流祭 2024 「阪神地域を盛り上げる大学生を知ろう！」
日 時	2024 年 12 月 8 日(日) 14:00～17:00
場 所	武庫川女子大学 文学 2 号館
目 的	阪神地域の大学・短期大学の大学生で構成されるつながり交流祭学生実行委員会が企画・運営の主体となり、地域団体や事業者、商店街等と連携して実施する地域活性化活動の促進をめざしています。
主な内容	14:00～ オープニングコンサート（演奏：武庫川女子大学 浜甲カンタービレ） 14:15～ 開会 あいさつ 14:25～ 活動発表（PR タイム）（40 分） 15:15～ ブースセッション（90 分） 16:45～ 振り返り・閉会 あいさつ 17:00 終了
参加者	158 人 （内訳）参加団体（学生・教員・大学事務局）：109 人 一般参加者・連携団体：30 人 つながり交流祭学生実行委員・兵庫県・こみサポ：19 人
主 催 共 催 企画・運営	つながり交流祭学生実行委員会 兵庫県阪神南県民センター NPO 法人コミュニティ事業支援ネット

つながり交流祭学生実行委員会

今回の「第 15 回阪神つながり交流祭 2024」では、各団体の魅力をお伝えしながら、つながりを意識できるような企画を考えて参りました。ブースセッションでは、団体同士と来場者の方々が交流・意見交換できる場所になっておりますので、最後までお楽しみください。

つながり交流祭学生実行委員会とは

「阪神つながり交流祭」を企画運営するため、阪神地域の複数の大学の学生から構成される組織で、NPO 法人コミュニティ事業支援ネットが実施する「阪神まち大学※」の中に設置されています。

※阪神まち大学…社会課題・地域課題に対して、自ら答えを導き出す力を身に付けた「社会で活躍する人材」を育成することを目的とした大学生向けプロジェクトです。

実行委員会メンバー

関西学院大学 人間福祉学部	4 年	川口 美空	関西学院大学 経済学部	4 年	チェ チョンヒョン
関西学院大学 法学部	4 年	町田 真之介	関西学院大学 総合政策学部	3 年	中村 莉果
関西学院大学 総合政策学部	3 年	山口 弥海	関西学院大学 総合政策学部	2 年	山口 乃亜
関西学院大学 法学部	1 年	生亀 沙樹	甲南大学 マネジメント創造学部	1 年	山田 諒

プログラム

14:00	オープニングコンサート (10 分) 演奏：浜甲カンタービレ 開会あいさつ(10 分) 兵庫県阪神南県民センター長 小林 拓哉 武庫川女子大学社会連携推進センター事務部長 谷村 勇一 つながり交流祭学生実行委員会 山口 乃亜	L2-11 教室(1 階)
14:25	活動発表・PR タイム(各団体発表 3 分) ブースセッションへの導入として、各団体が活動概要を発表します。	L2-11 教室(1 階)
15:15	ブースセッション (90 分) 発表団体がそれぞれブースを作り、活動発表を行います。 訪れる方と相互に交流し、つながりのきっかけとします。	L2-31～ L2-35 教室(3 階)
16:45	振り返り・閉会あいさつ 兵庫県阪神南県民センター副センター長 奥野所 正樹 つながり交流祭学生実行委員会 山口 乃亜	L2-31 教室(3 階)

～活動発表 (PR タイム) & ブースセッション参加団体～

※参加団体の詳細は 4 ページ以降に記載

1. 園田学園女子大学 教職サークル ゆかなか
外国にルーツのある子どもとその保護者の支援活動
2. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 大江篤研究室
塚口ゆめ未来プロジェクト ～コスメの売り場づくり&キッチンカーの販売活動～
3. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 足立邦子研究室
尼崎プロジェクト
4. 関西学院大学 栗田研究室
尼崎を甘～く
5. 関西学院大学 ソーシャルメディア研究会
子どもでも大人でもない”真ん中世代”が繋ぐ 「ネットとわたし」プロジェクト
6. 大手前大学 海老ゼミナール
西宮(阪神間)の地域観光資源の調査とタブロイド紙制作
7. 武庫川女子大学 生活環境学部 井上重信ゼミナール
cosmecco LUNA
8. 武庫川女子大学 浜甲カンタービレ
団地・大学交流プロジェクト 浜甲カンタービレ
9. 甲南大学 Beans Talk
スポーツ・社会的実践を通した子どもの支援活動

参加団体情報（詳細）／活動発表・PR タイム 報告順

1. 園田学園女子大学 教職サークル ゆかなか

プロジェクト名	外国にルーツのある子どもとその保護者の支援活動
担当教員	人間教育学部 児童教育学科 准教授 山崎雅史
連携団体	尼崎市総合政策局協働部ダイバーシティ推進課
発表概要	まずは、日本語教室に参加し、日本語の教え方を学びました。そして、そこで学んだ日本語の教え方を活かす実践の場として、尼崎市主催の夏休み宿題教室に参加し、ベトナム人の子どもの宿題をサポートしました。サポートしながら、指差し会話ツールとして、どのようなものにするか、どのような言葉が通じずに困っているのかを体験しながら考えました。現在、指差し会話ツール（下敷きとクリアファイル）の作成中です。

2. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 大江篤研究室

プロジェクト名	塚口ゆめ未来プロジェクト ～コスメの売り場づくり&キッチンカーの販売活動～
担当教員	経営学部 ビジネス学科 学長・教授 大江篤
連携団体	塚口商店街振興組合、尼崎市都市整備局土木部道路課、はんつかサラダ実行委員会
発表概要	学生たちが主体的に活動することにより阪急塚口駅前を活性化します。駅前 SOCOLA 内のダイエーとコラボしてコスメ売り場づくりの展開と大学キッチンカーを駅前で販売活動することで、阪急塚口駅前を元気にします。これらの事業を実施することで、変貌する阪急塚口駅から JR 塚口駅周辺の地域の方々とふれあうことでまちの活性化に多彩に取り組むことを目的としています。

3. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 足立邦子研究室

プロジェクト名	尼崎プロジェクト
担当教員	経営学部 ビジネス学科 准教授 足立邦子
連携団体	阪神電気鉄道株式会社、尼崎造園事業協同組合、都ホテル尼崎他
発表概要	【住みたいまち尼崎】 尼崎市内の公園を取材し、その記事（写真を含む）を書きました。また、複合型遊具をテーマにコラム記事を作成しました。それらを阪神電鉄様が運営される WEB サイト「阪神沿線活性化 WEB_エンカチ」及び SNS（LINE）から発信していただきました。 【訪れたいまち尼崎とその周辺地域】 尼崎市内のホテル内における若者向けレストラン・メニューや推活サポート・プランを提案し、効果的な PR 法について提案しました。

4. 関西学院大学 栗田研究室

プロジェクト名	尼崎を甘〜く
担当教員	経済学部 教授 栗田匡相
連携団体	一般社団法人 あまがさき観光局、阪神電気鉄道株式会社沿線価値創造推進室、株式会社ホンダカーズ尼崎
発表概要	私たちの活動は尼崎市が昔から抱えるあまり良くないイメージを甘く帰るために尼崎を甘〜くというプロジェクトを行っています。具体的には年に 2 回尼崎市の魅力を発信する雑誌を作成したり、あまがさき観光局と協力して、#尼崎食堂という名前で Instagram や WEB に投稿したり、また SDGs×地方創生をテーマとして、AMA WORLD FES というイベントを主催として開催しました。また今年は関西国際空港にて訪日外国人調査を行い、調査結果から尼崎市へ政策の提言を行う予定です。

5. 関西学院大学 ソーシャルメディア研究会

プロジェクト名	子どもでも大人でもない”真ん中世代”が繋ぐ 「ネットとわたし」プロジェクト
担当教員	人間福祉学部 教員 岡本周佳
連携団体	西宮市立深津中学校、西宮市東山台小学校、宝塚市中山台小学校、関西学院中学部・高等部
発表概要	昨今、増え続けている小学生によるインターネットトラブルを未然に防ぐために始めた SNS 講演会についてです。私たち大学生は、ネットを先に使い始めた先輩として、今の小学生にはインターネット上で同じ失敗をしてほしくないという思いがあります。そこで、周辺の小学校を訪問し、自身の失敗談や経験をもとに講演を行う活動を始めました。その講演内容は、子どもと年齢に近い大学生ならではのアプローチとなっています。

6. 大手前大学 海老ゼミナール

プロジェクト名	西宮（阪神間）の地域観光資源の調査とタブロイド紙制作
担当教員	現代社会学部 観光・地域マネジメント専攻 准教授 海老良平
連携団体	西宮市産業文化局産業部商工課（都市ブランド発信担当）、一般社団法人にしのみや観光協会
発表概要	本活動は阪神間の観光情報を掲載するタブロイド紙を制作することを目的としており、連携先となるのは西宮市商工課（都市ブランド発信担当）様、にしのみや観光協会様です。掲載内容は、西宮市などが推進している「にしのみやコーヒーの扉プロジェクト」の参加店舗へのインタビュー、西宮・芦屋市内のミュージアムや周辺施設取材した情報等です。なお、タブロイド紙は西宮市役所や市内の観光案内所他、各所で設置して頂く予定です。

7. 武庫川女子大学 生活環境学部 井上重信ゼミナール

プロジェクト名	cosmecco LUNA
担当教員	社会情報学部 社会情報学科 准教授 井上重信
連携団体	甲子園警察署、日本反射材普及協会、株式会社丸仁・Light Force、就労継続支援 B 型事業所ライラック、就労継続支援 B 型事業所すみれ、就労継続支援 B 型事業所輝き工房、就労継続支援 B 型事業所ワークキューブ、ヤドリギ商店、芦屋カフェ、株式会社木米、Oak Village、株式会社神戸マツダ
発表概要	リフレクターの普及に向けて活動をしています。リフレクターの認知向上と普及拡大により夜間の交通事故の削減を目指しています。普及のために端材を使ったワークショップを行い、売上は日本赤十字社に寄付をしました。リフレクターの普及にむけたフィールドワークとして障がい者施設や産婦人科、警察署等での調査を実施しています。さらにリフレクターに対するアイデア検討、商品開発などを行っています。

8. 武庫川女子大学 浜甲カンタービレ

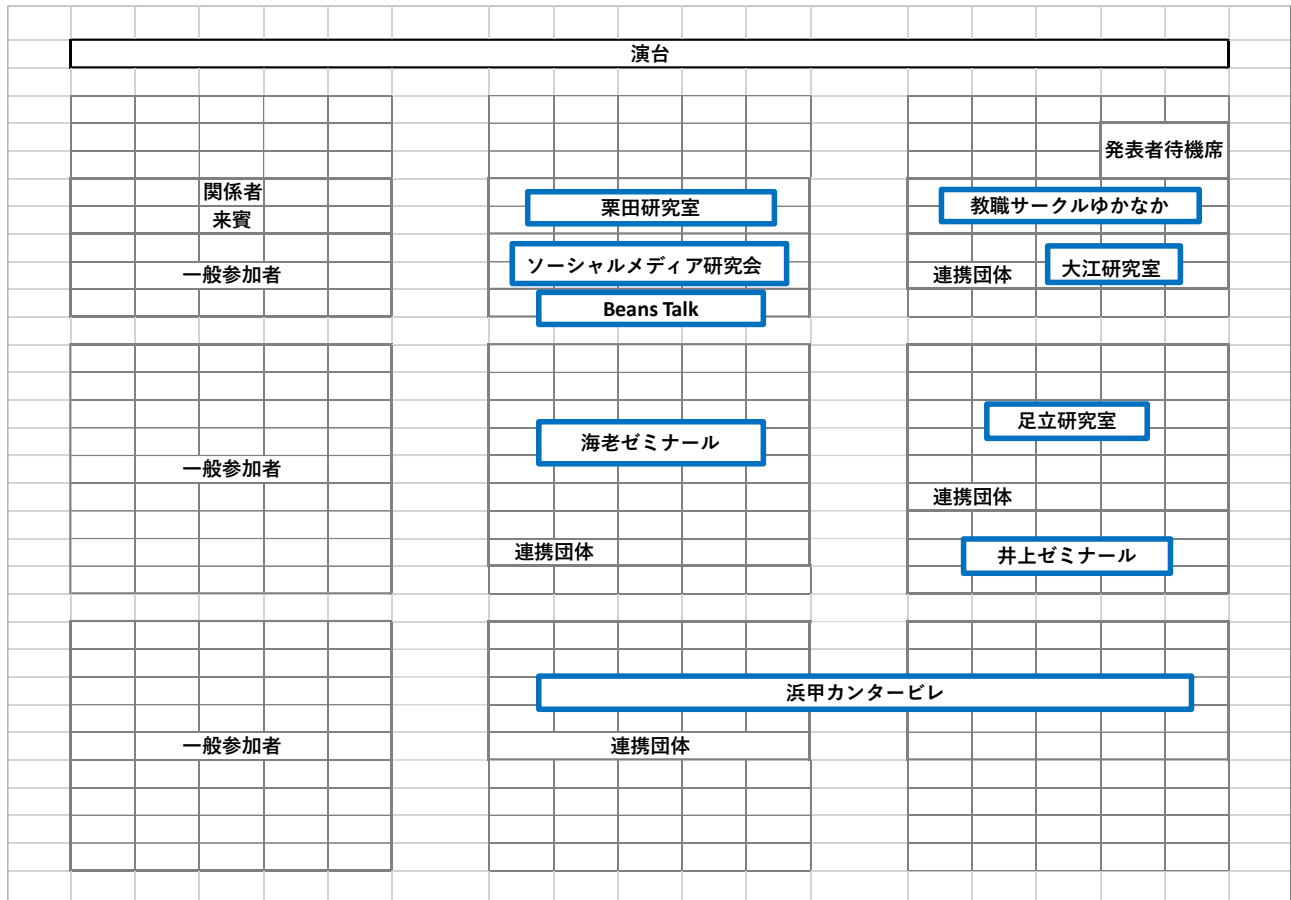
プロジェクト名	団地・大学交流プロジェクト 浜甲カンタービレ
担当教員	音楽学部 応用音楽学科 准教授 多田秀子（代表）／講師 坂口裕子
連携団体	UR 兵庫エリア経営部 企画課（阪神班）、浜甲子園団地自治会、一般社団法人まちのね浜甲子園
発表概要	『浜甲カンタービレ』は、2012 年に設立された武庫川女子大学音楽学部の演奏学科と応用音楽学科の両学科が一体となり学年を超えた学生ボランティア団体です。演奏者と来場者が共に楽しめる「参加型音楽会」（月 1 回程度）、浜甲カンタービレが主催し結成した「なぎさハーモニー合唱団」の活動（月 2 回程度）を通して、子どもから高齢者まで幅広い年代層の浜甲子園団地住民のコミュニティ活性化を目指して活動を続けています。

9. 甲南大学 Beans Talk

プロジェクト名	スポーツ・社会的実践を通じた子どもの支援活動
担当教員	甲南大学 マネジメント創造学部 非常勤講師 小林あきこ
発表概要	私たちは子どもたちがさまざまな体験を一つの場所で得られる場を提供し、経験格差をなくすことを目指しています。主に提供しようとしている内容はスポーツ分野と社会実践分野に分かれていますが、子どもたちにとって重要な体験であれば、分野にとらわれず幅広く行っていく方針です。現在は主に小学生を対象に行っています。その理由は中学生、高校生と比べて時間があるということや、一人時間の確保が難しい保護者の力になるためです。

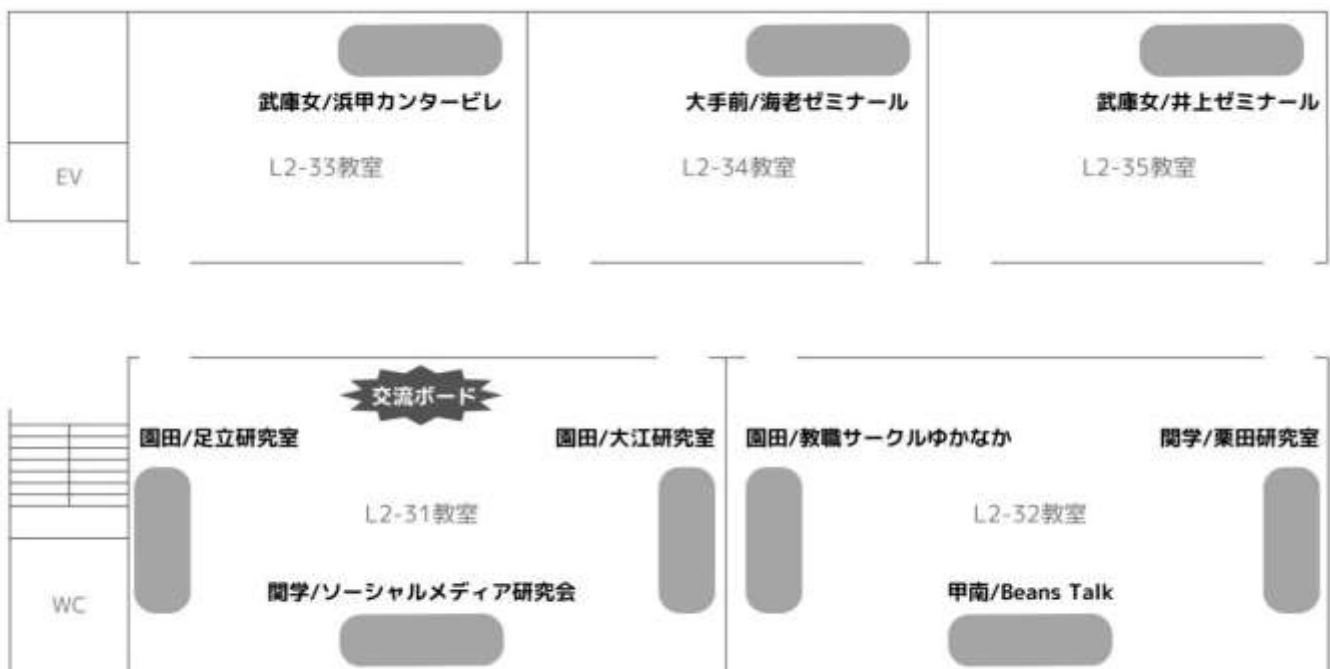
会場レイアウト図

■開会式、活動発表（PR タイム） 座席表 文学2号館 L2-11



■ブースセッション・振り返り・閉会式 レイアウト図

文学2号館3階 L2-31~L2-35
※振り返り・閉会式 L2-31 で実施



特別企画 【未来を描こう】阪神つながり交流ボード！

メインテーマ「私たちが思い描く阪神地域の未来」

みんなが思い描く「阪神地域の未来」をシェアするボードです。

阪神つながり交流祭の目的は、地域活性化の促進を目指し、阪神地域の大学と地域のつながりを深めることです。

地域活性化活動に取り組む学生との交流を通して、皆様の思い描く阪神地域の未来には、どんなことが必要だと思われましたか？

『あったら良いなと思う取り組み』、

『やってみたい活動』、

『理想の阪神地域の姿』を付箋に書いて、

L2-31 教室の交流ボード（ホワイトボード）に貼ってください♪

政策、イベント、ボランティアなど、なんでも構いません。

みんなの想いをつなげて、理想の阪神地域の未来をつくりましょう！



あなただけの阪神つながり交流祭 BOOK を作ろう！

in ブースセッション

ディスカッションやブースセッションと聞くと、
少し真面目な堅苦しいイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか？
私たち実行委員会は
地域活性化に興味のない人でも参加しやすい、ワクワクするような交流祭にしたいと思い、
この企画を考えました。

学生団体の活動内容を、視覚的にわかりやすいポップなポスターに仕上げました。
各ブースを回ることによって、スタンプラリー感覚でこのポスターを集めていただけます。

ご自身で集めたポスターを、パンフレットにどんどん加えてみてください！

これで「阪神つながり交流祭 BOOK」の完成です ✨

人それぞれブースを回る順番は異なるので、
あなただけの阪神つながり交流祭 BOOK を作ることができます。

ぜひ、積極的にブースセッションを回っていただき、

あなただけの阪神つながり交流祭 BOOK の作り方！



つながり交流祭学生実行委員会からのメッセージ

本日はご来場くださり、誠にありがとうございます。

本日のイベントはいかがでしたでしょうか？

このイベントが少しでも阪神地域への関心を持っていただくきっかけになり、
新しい人との出会いの場を提供できたのであれば、この上ない喜びです。

今年度は、より多くの人と交流し、その交流が深いものになって欲しいと感じたため、
ブースセッションに力を入れました。

私たちは、この「つながり交流祭」の企画を通して、参加団体（大学のゼミ）、
県やNPO 法人の方々と関わり、地域について考えるきっかけを得ることができました。

このようなイベントを企画できたことを、大変光栄に思います。

この「つながり交流祭」は、参加者の皆様、発表団体の皆様、武庫川女子大学様、
阪神南県民センター様、NPO 法人コミュニティ事業支援ネット様のご協力によって、
開催することができました。

地域社会もたくさんの方々の支えによって成り立っていると思います。

どうかこのイベントにとどまらず、これからも阪神地域の絆を深め、

共に助け合いながら明るい未来を築いていきましょう。

今日できた新しいつながりが、このイベントにとどまらず、
これからも地域をつくる仲間として続いていくことを願っています。

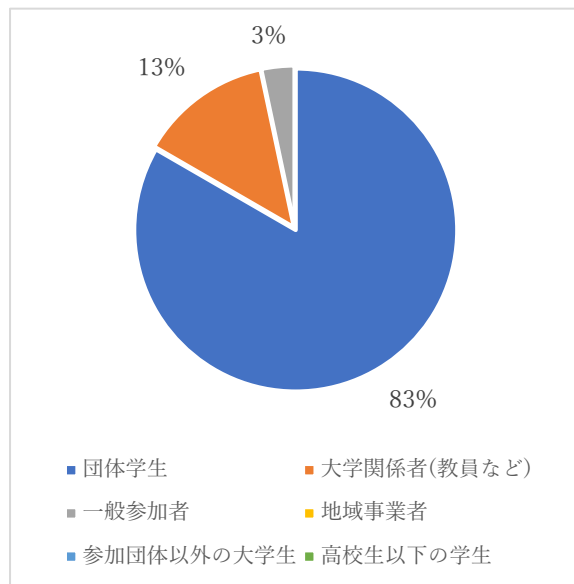
阪神まち大学 つながり交流祭 学生実行委員会一同

2. 交流祭当日のアンケート結果のまとめ

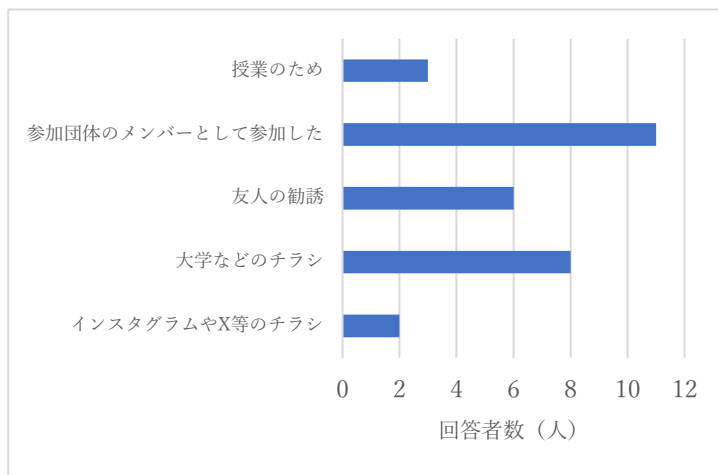
28 件の回答が集まった。

以下がアンケートの結果と内容である。

○参加者属性

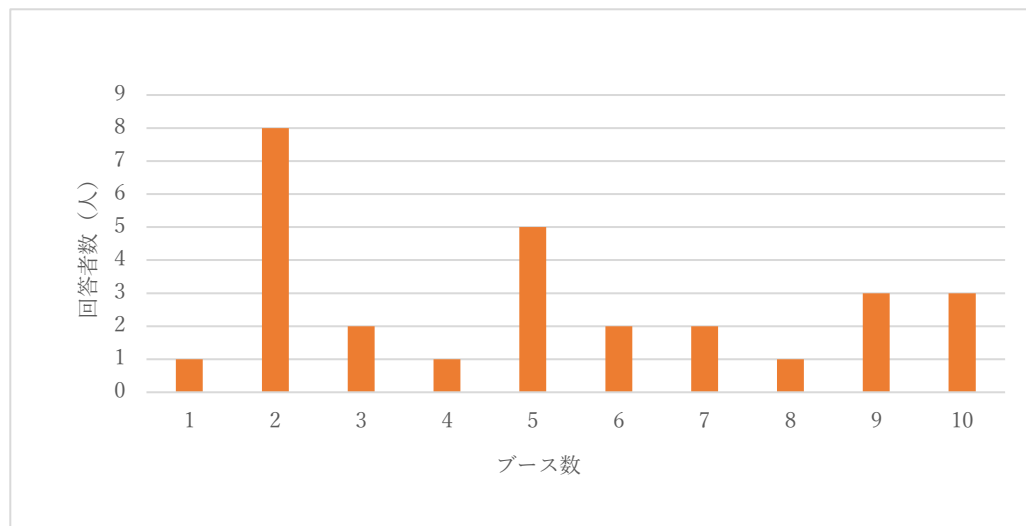


○参加のきっかけ



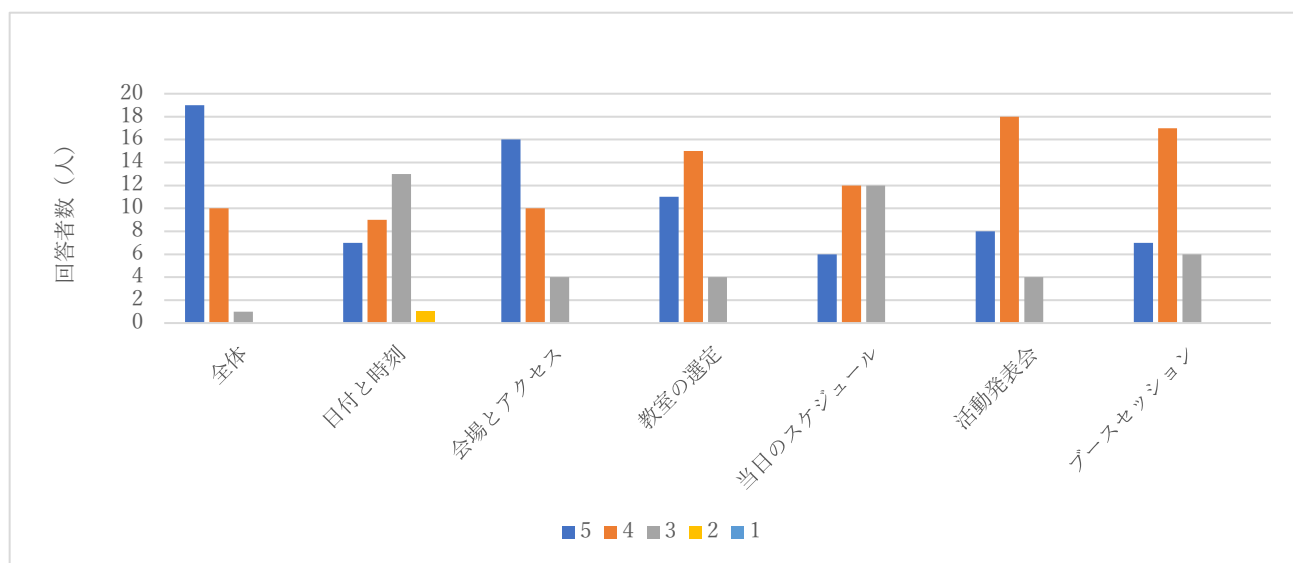
- ・最も多いのが『参加団体のメンバーとして参加した』
- 次に多いのが『大学などのチラシ』

○ブースセッションで交流できた団体数



- ・1～3 団体：11 名, 4～6 団体：8 名, 7～10 団体：9 名

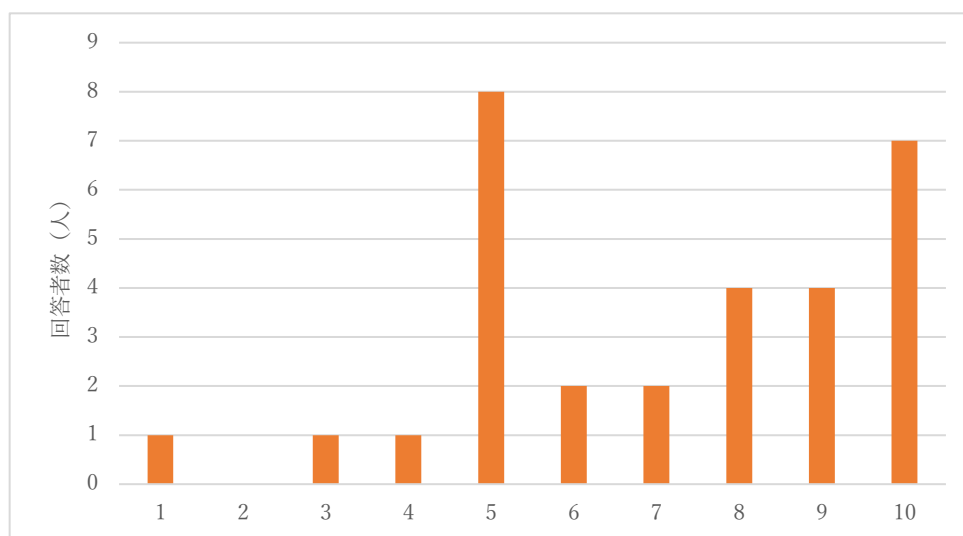
○阪神つながり交流祭の満足度



<5段階評価（5：満足 ～ 1：不満）>

- ・全体（総合的な満足度） 5：19名， 4：10名
- ・日時と時刻 5：7名， 4：9名， 3：13名， 2：1名
- ・会場とアクセス 5：16名， 4：10名， 3：4名
- ・教室の選定 5：11名， 4：15名， 3：4名
- ・当日のスケジュール 5：6名， 4：12名， 3：12名
- ・活動発表 5：8名， 4：18名， 3：4名
- ・ブースセッション 5：7名， 4：17名， 3：6名

○次回の阪神つながり交流祭への参加希望度



<10段階（1：可能性は全くない ～ 10：極めて可能性がある）>

○イベントに対して改善点やご要望（記述）

- ・地域の方々の参加を増やす方策をご検討ください。いくつかマッチングのきっかけがありましたが、多くの方に来ていただきたいと思います。
- ・各ブースに付箋でコメントしたいです。
- ・ブースセッション時間をもう少し短縮し、終了時間を少し早めてほしい。
- ・片付けが昨年よりもとてもスムーズで本当にありがたかったです。机椅子移動の際に、原形が分からなかったため、もう少し指示をいただけるとさらにスムーズに片付けることができると思いました。
- ・今回のプレゼンを見ていて、とても上手いところもあればまいちなところも正直あったので、プレゼン優秀賞にはこちらをプレゼント的なものがあればみんなも良いプレゼンになるのかなと思いました。
- ・ブースセッションの時間が少し長かった。
- ・返却物のリストの紙などがあればよかった。

○アンケート結果を踏まえて

良かったこと

- ・片付けが昨年よりもとてもスムーズになっていたとの声があった。
- ・前年と比較し、イベントに関する不満を改善することができた。

改善すること

- ・『返却物のリストの紙などがあればよかった』や『片付けの際に、教室の原形が分からなかった』などの意見があったため、実行委員内だけでなく、参加団体に必要な情報を洗い出し、共有しておく必要がある。
- ・『各ブースに付箋でコメントしたい』との意見もあったため、当初の案にあったように、各ブースに交流ボードを設置したり、交流ボードのテーマをもっと自由度の高いものにしても良いかもしれない。
- ・ブースセッションの時間が長いとの意見が複数あった。当日は、間延びしている状況を見て時間を短縮して閉会の時間を早めたものの、さらに短い時間に設定するか、追加団体数を増やすなどの策も考えられる。
- ・昨年と同様、回答者数が少なかった。閉会時に呼びかけもおこなっていたが、その場で回答する時間を作るなど、やや強制的な手段をとることの必要性も感じられる。
- ・地域の方々（一般参加者）の参加を増やす方策を考える。
- ・活動発表では、団体全体の発表内容の質向上につなげるため、良い発表をした団体に優秀賞などを与えるなどの工夫を検討してみる。

3. 2024 年度の活動の進め方

8月～12月までの活動の進め方(2024年度版)



11月中旬から交流祭当日まで全く余裕がなかったため、このスケジュールよりもっと早く準備すべきだったと思います。

全体的にもっと早め早めで決められたらベストだと思います。

4. チーム別振り返りレポート

資料作成チーム

1. チーム創設の経緯

メールや MTG を行う中で、より分かりやすい説明資料を作成する必要があったため。

2. チームの発足時期

10 月 1 日

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	・資料作成（パンフレット、開催概要、準備物に関して、回答書） ・団体へのメール連絡 ・団体へのインタビュー（2 回）
よかった点	【資料作成】 ・分かりやすい資料を作れた。 ・ワードを共同編集にし、タスク配分。完了後は、ダブルチェックを入念に行い、ミスがないかを確認した。 【メール】 ・送る内容をおおまかにグループラインで共有することで、統一したメールを送ることができた。 【団体さんとの関わり】 ・トラブルは特になく、団体さんとのインタビューでは、話しやすい雰囲気づくりと分かりやすい説明ができた。説明用のパワポを用意したため、焦ることなくインタビューできた。 ・追加団体との MTG や連絡など、短期間で対応する必要があったが、迅速に行えた。 ・決定事項だけを団体さんに伝えて、混乱を防げた。
反省点	【資料作成】 ・スケジュールを決めるのが遅かったため、資料作成がギリギリ過ぎた。 ・困りごとや質問をまとめてリスト化してからコミサボさんに聞いていたが、積極的に質問すべきだった。 ・文調をこちらで提示すべきだった。 【スケジュール管理】 ・逆算して計画を立てることができなかった。カレンダー等を使って、〇月になにをすると決められたら良かった。しかし、初めてのことが多すぎて、逆算することは現実的に不可能？ 【メール】 ・メールを送る期限を決めていたのに、それを守れなくて予定が倒れていった。 ・アドレスの入力ミス→メールが届くのが遅くなった団体さんもある ・当日のスケジュールを、資料作成の際に作った。ブースセッションを 90 分と設定していたが、当日は 80 分で終了した。過去の交流祭の時間配分を参考にしたり、追加団体数の予測を立てられたら良かった。 【その他】 ・基本的なルールがあやふやになってミスに繋がった。 ・担当者が決まっていない仕事が発生したときに、どうしたら良いのか分からない現象が起こった。

パンフレット作成チーム

1. チーム創設の経緯

スタンプラリー案から派生して、自分だけの 1 冊となるものを作りながらブースを回って楽しんでもらえるようにするため。視覚的に、形として残るもので楽しんでもらうため。

2. チームの発足時期

10 月中旬

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	・BOOK と掛け合わせたサブテーマを考案 ・冊子の形（本、カード）や東ね方（リング、ホチキス、紐、テープ）などを、さまざまなアイデアを出しながら決めた ・冊子、各団体ポスターのレイアウトデザイン作成 ・企画会議のための zoom ミーティング ・方法の企画（スタンプラリー→本、ポスター集め） ・各団体の一言の表し方とクイズの例を考えた→団体に提示
よかった点	・阪神地域における、各団体の役割をアピールするという方向で、例を挙げながらどのようにすべての団体さんに説明するかを考えた（「団体の一言」という抽象的なものをより具体的に統一感のあるものに、かつ、各団体の色がわかるキャッチコピーとなれるように、丁寧に具体化） ・クイズも交えて参加者が楽しめるようにした ・メンバーそれぞれが自分の意見を可視化して伝えられたため、具体的なイメージができた。→お互いのイメージを統一 ・団体情報入力やデザインなど、メンバーごとに役割分担できたこと。 ・丁寧に話し合いを重ねた ・急な変更に対応できた
反省点	・canva 作成や表紙作成などを 1 人のメンバーに任せきりな部分があった ・連絡があまり密に取れなかった ・最終案を決めるまでに時間がかかった

広報チーム

1. チーム創設の経緯

多くの人に周知できるように SNS 等の広報活動を開始した。

2. チームの発足時期

11 月上旬

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	・阪神つながり交流祭公式 SNS の運用（インスタと X。内容：メンバー紹介、交流祭の説明、団体紹介、チラシ、本番までのカウントダウン、活動日記、定例 MTG の報告） ・チラシ作成 ・チラシ配架依頼（メンバーにも）
よかった点	・メンバー紹介をすることで、実行委員も学生であることを強調し、親しみを持ってもらいやすくなった ・去年の広報を改善し、団体紹介投稿では写真を用いることで、団体の活動をイメージしやすくなった ・交流祭を知らない人目線での投稿を心掛けた ・メンバー紹介やカウントダウン、活動日記など、広報担当者だけでなく実行員全員を巻き込んだ広報活動ができた ・X にて、活動日記をつけることで、メンバー間での現状把握にも繋がられた ・SNS にて、興味を持ってくれそうな阪神地域の活動団体をフォローし、新しい繋がりを自ら作れた。
反省点	・まち大活動開始当初から発足させていても良かったかも ・MTG 終了に合わせていたので真夜中の投稿が多い ・大学への広報依頼などをもっと積極的に行うべきだった ・参加者を含めた全体写真を撮るべきだった。 ・交流祭後の投稿をするのが遅れてしまった

交流ボード作成チーム

1. チーム創設の経緯

参加者の声を聴きたいと感じコメントボードを作ることになったのがきっかけである。実際にやっていくとやるべきことが多く、コメントボード専用のチームを作ることとした。

2. チームの発足時期

11月下旬

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	概要：つながり交流祭の軸となる、交流ボードについて企画、運営を行った。交流ボードでは、つながり交流祭の全体発表及びブースセッションを体験した上で、理想の阪神地域のあり方について、一般参加者及び参画学生団体の方に意見を書いてもらい、みんなに見えるように共有した。 交流ボードの作成方法：ホワイトボードを用意して、B4の紙を9枚重ねて貼り付けた。その上に参加者の理想の阪神地域に関するコメントを書いてもらい、コメントボードが完成した。
よかった点	資料チームとの連携ができ、本来の目的である「イベントの企画」というパーパスに近づくことができた。 参加後アンケートから明らかになっているように、ブースセッションを長く感じる来客も多いなか、ブースセッション中のコンテンツができたことは大変よかった。 また、閉会式において、理想の阪神という質問を参加者に投げることで場を盛り上げるきっかけにもなったこともよかった。 活動発表会からブースセッションに至るまで、参加者にはインプットの活動しかできなかったが、交流ボードの存在が、アウトプットの活動になり、本当の交流という意味合いに近くなった。
反省点	発足がややぎりぎりになってしまった。 名前や企画内容がころころ変わり、県の方やコミサポの方にうまく報告、連絡、相談が出来ず、迷惑をかけた事がある。 交流ボードにクリスマスアート要素を入れるなどの理想論が出たが、現実的には困難であった。 当日、私たちが声をかけないとなかなかコメントを書いてくれなかった。 つながり交流祭のブースセッションを見たうえで理想の阪神について書くというテーマ上、ブースセッション終了間際に人が集まってしまった。そのことによって、次のプログラムである閉会式への接続が、うまくできなくなる。

5. 来年の実行委員会に向けて

【活動について】

- ・ イベント企画・運営を一通り経験し、多様な能力を身に付けることができます。ただし、経験には継続、能力には積極性が必要です。目的意識を持ち、これらを意識しながら挑戦してください。
- ・ 全体の流れを確認しながら進めても、11月中旬以降にタスクが急増しました。10月中旬頃には、細かなスケジュール（団体への連絡時期や広報物の完成期限など）を具体的に立てておくスムーズです。また、過去の資料や実行委員経験者の話を参考にするのも効果的です。
- ・ LINE グループや投票機能を活用し、全員の予定は揃わないことを前提としてスケジュール調整をしましょう。忙しさが人によって違うことを考慮し、負担を分散しましょう。
- ・ 下見は入念に……。とにかくいっぱい写真と動画を撮る／黒板や机のサイズを計測する。メジャー持っていきましょう！
- ・ 交流祭当日は、自分のタスクだけでなく、全体の流れや他のメンバーの動きを把握することが重要です。全体を意識することでスムーズな連携が可能になり、準備や運営が円滑に進みます。

【人間関係について】

- ・ 学年を理由に意見を伝えることを躊躇する必要はありません。自分が他者の意見を知りたいのと同じように、皆さんもあなたの考えを知りたいはずです。
- ・ 普段のおしゃべりでお互いを知ると議論も活発になります。普通にマクドとか食堂でおしゃべりしたり、食事やカラオケなども行ったりしていました！
- ・ 互いの良い点や尊敬できる点を早い段階で見つけると活動しやすくなります。リーダーは、メンバー同士の距離を縮めるために、相手の素敵なところや得意なことを伝える工夫をしてみてもいいでしょうか？
- ・ 明るい雰囲気の中でこそ良いアイデアは生まれると思うので、楽しむ気持ちを大切にしながら、ぜひ頑張ってください！！

【全体について】

- ・ 前例にとらわれずに、面白いと思うことはどんどんアイデアを出しましょう。大人の方々も全力でサポートしてくれるので、安心してアイデアを楽しみながら挑戦してください！
- ・ 完璧なイベントを目指すだけでなく、その過程での成長と経験を次に活かすことを大切に頑張ってください。
- ・ キックオフから本番までの期間は短いです。失敗を恐れず、どんどん行動しましょう。
- ・ 交流祭当日「これでよかった」と心から思えることを目標にして頑張ってみてください。